

行政事業レビューシート (文部科学省)						
予算事業名	生涯学習フェスティバル		事業開始年度	平成元年度	作成責任者	
担当部局庁	生涯学習政策局		担当課室	生涯学習推進課	生涯学習推進課長 藤野公之	
会計区分	一般会計		上位政策	生涯を通じた学習機会の拡大		
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	教育基本法第3条		関係する計画、通知等	教育振興基本計画(平成20年7月1日)		
事業の目的	<p>広く国民一般に対し生涯学習に係る活動を実施する場を全国的な規模で提供することなどにより、国民一人ひとりの生涯学習への意欲を高めるとともに、学習活動への参加を促進し、もって生涯学習の一層の振興に資することを目的とする。</p>					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	<p>文部科学省は、開催県に対し事業経費を支出する。開催県は、文部科学省、開催県・県内市町村、関係団体等による実行委員会(実行委員長:知事)を組織し、以下の事業を実施する(平成21年度)。                      (1)生涯学習に関するシンポジウム、講演等 (2)芸術、芸能、スポーツ、レクリエーション等の展示、公演、イベント等                      (3)生涯学習見本市(全国の市町村や団体・企業等による展示) (4)生涯学習体験広場(体験教室、イベントステージ等)</p>					
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、開催県を変えて実施。</li> <li>・平成21年度は埼玉県で開催。期間中(平成21年10月30日～11月3日)、埼玉県内全市町村において関連事業を実施し、全参加者数約224万人(延べ人数)。</li> <li>・秋篠宮同妃両殿下がご臨席。</li> </ul>					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	123(123)	113(113)	108(108)	96	-
	執行額	122	107	103		
	執行率	99.19%(99.19%)	94.69%(94.69%)	95.37%(95.37%)		
	総事業費(執行ベース)	271	245	320		
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	<p>・事業の目的に沿った企画・実施がされるよう、計画段階から実行委員会等(6回)に職員が毎回出席し助言を行った。また、フェスティバル開催中に職員を派遣し、実施状況を把握した。                      ・事業効果を把握するため、来場者に対してアンケート調査を実施したところ、満足した(96%)、これを契機に生涯学習に取り組みたい(79%)といった結果を得るなど、生涯学習の普及・啓発という面において成果があった。                      ・予算の支出先・用途については、実行委員会において審議・議決した。また、文部科学省においても開催県より提出された報告書等及び県担当者からの意見聴取を行い、検査・確認した。</p>				
	見直しの余地	<p>・事業実施後20回を節目に実施手法等事業の見直しを行ったところ、祭典的意味合いが強い、開催県の負担が大きい等の課題が明らかになった。                      ・このため、平成22年度の高知大会からは、官民協働による生涯学習活動を通じて、社会的課題等の解決を図る取組を推進することを主たる目的として重点化し、課題ごとに実践、研究討議等を行い、その取組のきっかけづくり、あるいは成果報告・情報発信の場として位置付けた。更に、全国的な交流を促進し、様々な分野にまたがるネットワーク化を推進する。                      具体的には、①生涯学習の祭典中心の事業から、事前に社会的課題を複数設定し時間をかけて議論を深め、本事業において課題解決策をまとめる又は実際の活動に接続する契機とするなど継続的な取組として位置付ける。また、その成果を全国に情報発信することにより同様な課題解決のベンチマークとする。②事業の効果や効率性等を踏まえ、開催期間を5日間から3日間に短縮する。③これらにより12百万円の経費節減(対平成21年度)を図った。                      ・生涯学習活動を通じて、官民協働による社会的課題の解決を図ることは、新しい公共の担い手育成や活動の広がりにも資するものであり、本事業を実施する意義は高いと考えているが、高知大会の成果等を踏まえ、更に効果的な事業実施に向けて改善を図ることとしたい。(平成23年度岩手県予定)</p>				
予算監査視の・所効見率化	<p>1. 事業評価の観点:この事業は、生涯学習活動を実践する場を全国的な規模で提供することにより、国民一人ひとりの生涯学習への参加意欲を促進し、今後の学習活動の進展に資することを目的としたイベント事業である。また、本事業は平成元年度から実施している長期継続事業であり、「公開プロセス」の対象となった事業である。</p> <p>2. 所見:この事業は、「公開プロセス」での「これまでの成果を踏まえ、国費の投入については一旦廃止をしたうえで再検討すべき」との評価結果を踏まえ、廃止すべきである。但し、同プロセスにおいて、「平成23年度開催県(岩手県)までは実施してはどうか」とのコメントがあったこと及びすでに平成23年度開催県において事前着手していることから、平成23年度の実施については、予算を縮減した上で、実施すべきである。</p>					
補記						

文部科学省  
<103百万円>

開催都道府県の選定、実行委員会等への参画

職員旅費 1百万円  
委員等旅費 1百万円  
庁費 1百万円  
生涯学習フェスティバル運営費 4百万円

を含む

95百万円

(実行委員会)

県

[支出]

(A) 埼玉県教育委員会  
(実行委員会事務局)  
<312百万円>

[支出]

県下市町村

217百万円

関係団体等

総合開会式・閉会式、生涯学習体験広場の  
企画・運営

※文部科学省、埼玉県、県下市町村、関係団体等で  
実行委員会を構成(事務局:埼玉県教育委員会)

95百万円

82百万円

135百万円

[公募・委託]※

(B) 株式会社電通東日本、TSP太陽株式会  
社(共同企業体)  
<95百万円>

[その他フェスティバルの実施・運営  
に必要な経費を支出]

総合開会式・閉会式、生涯学習体験広場の  
企画・運営

※20年度に企画競争で選ばれた企業

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を  
行っているかについて補  
足する)  
(単位:百万円)

A. 埼玉県教育委員会			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
外部委託	株式会社電通東日本、TSP太陽株式会社(共同企業体)	95			
計		95	計		0
B. 株式会社電通東日本、TSP太陽株式会社(共同企業体)			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
借料及び損料	必要機材、物品等の借料・損料	41			
人件費	運営スタッフ、会場設営スタッフ等	25			
雑役務費	会場設営に要する経費等	15			
その他	運営管理費、通信運搬費、消耗品費	14			
計		95	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途  
 (「資金の流れ」  
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。使途と費目の双方で実情が分かるように記載)